

第2期第4回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2014年7月21日（月）14:00～16:00

〔場 所〕町田市生涯学習センター 6階調理実習室

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川清（会長）、小川久江（副会長）、岩本陽児、押村宙枝、佐合昭浩、菅谷万里子、辰巳厚子、富川尚子、西原要四郎、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子
以上 13名

事務局：稲田センター長、外川担当課長、堀江管理係長、松田事業係長、
村田担当係長、齋藤担当係長、中村主事（記録）

〔欠席者〕太田美帆、花田英樹

〔傍聴人〕4人

〔資 料〕・第4回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 変更案
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 資料1～資料5
- ・第4回町田市生涯学習センター運営協議会 事前提出意見
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～報告3

- 生涯学習センター運営協議会委員 委嘱伝達式
→ 稲田センター長から菅谷委員に委嘱状を授与。

<協議事項>

1、2014年度生涯学習センター事業の企画について

（1）福祉総務課共催講座「知って安心！成年後見制度」

事務局：成年後見制度を担当している福祉総務課と共催で行う。2014年度から社会福祉協議会が中心となり、市民後見人の養成を本格化させるということで、その前段で成年後見制度の基礎を学ぶことを目的とする。また、成年後見制度については市民企画講座で2団体から実施申請があったが、2013年度も同様のテーマの講座を行ったことと、市民企画講座は5講座しか実施できないこともあり、今回は市民企画講座ではなく、実施申請があった2団体と、福祉総務課、ひかり療育園、社会福祉協議会の協力を得ながら実施する。

（2）町田地方史研究会共催講演会

東京府移管120周年記念講演会「自由民権と三多摩の自治」

事務局：例年町田地方史研究会と共催で行っている講演会で、町田が東京府移管120周年を記念して、当時の町田の歴史について専修大学教授の新井勝紘氏にお話しいただく。

（意見・質問）

委 員：福祉総務課共催講座について、成年後見制度のような時代背景に応じたテーマについてのアプローチは、今後も市民と行政とが一体になって進めていくことが望ましい。

2、事業評価について

（1）和光大学共催講座「発見！新しいアジア」

事務局：2014年度で3回目となる和光大学との共催講座で、多数の応募をいただいた。講座後に懇親会を行い、参加者の交流の場を設けることができた。参加者からは非常に満足の声をいただいた。

（意見・質問）

委 員：和光大学はアジアに特化した大学であったが、これまでなかなか一般の方々にお伝えするチャ

ンスがなかった。当初は3回の講座のみを予定していたが、非常に好評だったため急遽交流会の案を出したところ、職員の方にも快諾していただき、和光大学を地域に広める良い機会になった。生涯学習センターの他の講座においても、講座を行うだけでなく、その後に交流の機会を設けると学びの質が更に向上するのではないかと。

(2) サタデーコンサート「情熱のアルゼンチンタンゴ」

事務局：非常に人気が高く、沢山のお子さんにも参加いただいた。当日はほぼ満席で、参加者からも非常に好評だった。

(意見・質問)

なし。

(3) 幼い子どもと暮らす親と子の交流ひろば「くるくるロケット」

事務局：この事業は2～3歳児とその保護者を対象に行ったもので、10組の定員のところ、9組の親子に参加いただいた。アンケート結果からも非常に満足度の高い講座となった。委員の方からの事前意見のなかにも定員が少ないのではないかと意見があったが、保育室の定員もあり、希望者が多ければ今後会場も含め検討していく必要があると考えている。また、企画者については市民グループに依頼しており、参加者だけでなく企画者同士でもネットワークづくりのきっかけの場としても今後活かしていきたい。

(意見・質問)

委員：きしゃポップのような形式で通年でやっていくのか。

事務局：2015年度からそのように実施する予定である。

委員：今後2014年度中には単発では行わないのか。

事務局：他の事業との兼ね合いで、可能であれば実施したいと考えている。

委員：きしゃポップとくるくるロケットについて、団体同士の連携を図っていくネットワーク化のきっかけの場として位置づけられているとのことだが、9組の親子の参加でどのようにネットワーク化に結び付けていくのか。

事務局：参加者というよりも企画者側のネットワーク化を考えており、くるくるロケットでは市民グループで実行委員会を立ち上げ、そのなかで年間計画を検討し、実施していくことで繋がりになればと考えている。

委員：都の補助金対象事業とのことだが、10組の定員はかなり少ないように感じるので、定員については今後検討していただきたい。

委員：地域のママさんサークルを洗い出し、まだネットワークに入っていないお母さん方に周知していく場があれば良いのではないかと。

<報告事項>

1、事業評価の最終報告

会長：第3回運営協議会で出た意見を踏まえ、今回の評価シートから、センター長総合評価をアルファベットではなく、該当する評価にチェックを入れる形式にした。

事務局：生涯学習センター利用者交流会は、生涯学習と社会教育について理解を深め、生涯学習センターの利用について考えるという初めての取り組みだった。今後、より多くの利用者が参加できるよう事業の実施を図っていく。

第9回まちだフレッシュコンサートについては、多くの参加者から好評の声が寄せられたが、これに満足することなく、改善しながら事業の実施を図っていく。

伊賀健一氏講演会について、市民団体との共催事業は、市民の学習ニーズに応えるための貴重なツールである。共催で行うルールを整備し、事業の実施を図っていく。

(意見・質問)

委員：評価に「現状のまま継続」や「改善しながら継続」とあるが、次年度も同じ方を迎えて同じ講座を行うのか、それとも市民団体との共催事業自体を継続するのかがわかりにくい。

会長：評価シートのありかたについては、この後の議題で検討していく。

(2) センター長報告

教育委員会第4回定例会が7月4日に開催された。第2期生涯学習センター運営協議会委員の欠員となっていた学識経験者1名の委嘱について、議決された。

2014年度平和祈念展について、8月2日から8月10日まで生涯学習センターで行う。

2014年度市民企画講座について、5つのテーマで募集し、26の申請の中から選考し、5講座を採用した。

まちだ市民大学HATS後期講座について、広報まちだ7月21日号、ホームページ、チラシ等で募集していく。

また、ことぶき大学後期プログラムについても広報まちだ7月11日号他で募集している。

(3) 東京都公民館連絡協議会について

委員：7月19日に、福生市さくら会館にて東京都公民館連絡協議会委員部会及び第1回研修会が開催された。講師に日本体育大学教授の上田幸夫氏を招き、研修会では「公民館の活性化・公民館まつりを考える」というテーマで、講義形式ではなく交流を主目的として、各市から50名が参加した。要点として、市職員と公民館運営審議会との関係をどのように考えるか、それぞれの役割を根本的に考える必要があるということ、また、まつりと通常行っている講座と対比し、まつりの目的を考えるとということ、人数が集まればそれでいいのか等の問題提起がなされた。これらを踏まえ、グループごとに各市の現状や課題について発表し、まとめとして、まつりの最終目標は公民館の役割を果たすことであり、そのためには地域づくりや人づくりに繋げていくこと、まつりを通じて公民館を知っていただくことが大切だということになった。また、委員の役割として、市職員と市民との橋渡しやバックアップをしたり、市が実施する事業の協力・応援隊ではないかと講師の方からお話があった。

事務局：第55回関東甲信越静公民館研究大会が10月に埼玉で開催される。

委員：例年行われている全国公民館研究大会の関東ブロックで、2014年度は埼玉、2015年度は東京で行われる。東京都は他県と比べ、体制が弱いこともあり、通常はプログラムを何日かに分けて行うところを2015年度は1日のみの開催となる。町田市ではこの大会に職員や委員を派遣しないのか。

事務局：特に考えていないが、委員の方で参加希望がある場合は3名まで参加費・交通費を支給させていただきます。

委員：東京都は公民館事業に対し非常に消極的であると聞かすが、現在はどのような状況なのか。

委員：役員会のほうでもそのような話題が挙がっており、東京都の公民館に対する支援や、都内の公民館同士の連携についての議論がされていると聞いている。

<事業評価について>

会長：第3回運営協議会で出た意見をもとに、事業評価シートの変更案を事務局のほうで作成した。変更点としては、「評価項目」の各評価及び「センター長総合評価」をアルファベットから文章にした。

事務局：「評価の理由(担当者)」欄と「運営協議会委員意見」欄を若干広げた。また、各評価についてはこれまでアルファベット表記だったが、評価項目によって評価の内容が違ったため、具体的に書かれている評価内容をそのまま記載した。あくまで案として提示したので、いろいろとご意見をいただきたい。

委員：非常に良くなったと思う。ただし、事業内容の「事業の必要性」の欄で、必要性が「薄れていない」という表現はあまりよくないと感じる。必要性が「ある」という表現のほうがよいのではないか。また、発展性について、講座自体は好評で終わったとしても次の活動に繋がらなければ発展が得られなかったことになる可能性があるのでは、どのように評価するかが難しい。

委員：運営協議会意見が、次の事業にどのように反映されているのか疑問に感じる。

委員：この運営協議会に出席していない事業担当者や、異動等で担当者が変わった場合、この場で我々が出した意見が、次の事業で活かされているのか不明である。

- 委員：最も大事なものはセンター長総合評価ではないか。具体的に事業の実現をどのように図っていくのかを詳細に書くべきと感じるので、センター長総合評価の欄を拡大すべきである。
- 事務局：事業評価の次年度への引継ぎについては、継続事業であれば必ず前年度の事業評価シートを確認している。センター長総合評価について、「改善しながら継続」や「内容を変更して継続」の違いがわかりづらいため、表現を変えるべきと考える。そもそも事業を継続するにあたり改善するのは当然であり、継続するためにどの部分をどのように改善するのかという書き方を工夫していきたい。
- 委員：評価項目が多く、自己評価に時間がかかってしまうので、項目をもう少し整理すべきである。評価結果を改善に繋げることが最も重要なので、次回の実施方針を書くようにしてはどうか。
- 委員：評価シートの項目は整理してもう少しまとめてよいと思う。また、「前年との違い及び改善点」の欄をもう少し拡大し、具体的に書けるとよい。
- 委員：事業成果の「発展性」は必要ないのではないか。確かに次の活動等に繋がったかというのは評価したい項目ではあると思うが、この段階で見極めて評価をつけるというのは非常に難しいように感じる。例えば講座の参加者から次の活動に繋がるような声があった場合は、チェック項目ではなく文章で表現したほうが良いと思う。
- 事務局：一度に変えるのは難しいので、いただいた意見を少しずつ反映しながら徐々に変えていきたい。
- 委員：「実施上の留意点」については、前年度のシートから重要な点をいくつかピックアップし、次年度に反映されるようあらかじめ記入しておいてはどうか。
- 会長：今回いただいた意見を集約し、次回再びたたき台を提示する。

<今後の運営について>

- 会長：委員の皆様には事前に様々な意見をいただいたが、協議の前に、この運営協議会の仕事の領域のコンセンサスがうまくとれていないので、そこをうまく固めていきたい。まずは生涯学習センター運営協議会として限られた範囲で何ができるか、何を取り組んでいくべきかを共有していく。これまでは事業評価シートを基にした事業評価を中心に行ってきた。町田市生涯学習センター運営協議会設置要綱の所掌事務には「生涯学習及び社会教育に係る講座、講演会等の内容及び成果に関すること、前号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項について協議し、その結果を町田市教育委員会に報告する」とあるが、「生涯学習及び社会教育に関する講座、講演会等」というのがどこまでを指すのかが非常に曖昧である。しかしそこだけについて議論しても社会情勢の変化に対応できないので、ある程度範囲を広げた議論をしたい。
- 委員：生涯学習センターで行われている講座、講演会について細かい議論を積み重ねることで全体像が見え、具体的な問題点が見えてくる。細かく具体的な議論をしたからこそわかったことがあると非常に感じている、生涯学習とは何かという踏み込んだ議論をしたい気持ちもあるが、それは運営協議会の役割ではないのではないかと感じている。
- 委員：何故審議会があるのか、何故教育委員会が設置されているのかというところから議論していくべきではないかと考える。行政が適正な事業を行っているか、市民の代表が監視するという緊張関係で制度設計が成り立っているのか、その辺りをしっかりと確認ができればどのレベルの議論をしても良いと考える。
- 委員：この運営協議会は生涯学習センターに設置されているので、やはり生涯学習センターについての議論をすべきではないかと考える。また、運営協議会委員は、市職員と市民との橋渡しのような役割だと考えている。そういった意味では第三者としての評価が最も重要であり、次の事業にどのように活かされているかを見守り、助言していく必要がある。
- 会長：これまで個々の事業についての評価のみ行ってきたが、事業と事業をつなげた全体についても議論していくべきと考える。
- 委員：評価して終わるのではなく、改善の見える化をするべきである。また、企画から事業評価まで、かなりのタイムラグが生じることも問題である。次年度の事業には活かしても当年度中の同様の事業には反映できない。事業と事業の相乗効果を上げるような仕組みづくりが必要である。また、前年度の計画の振り返りや、当年度の計画の柱があれば開示していただきたい。
- 委員：個々に行っている事業は、以前事務局からいただいた事業一覧のなかにしっかりと落とし込ま

れている。個々の事業をこの一覧の中のどの事業に該当するかを認識していれば、事業全体が見えてくるのではないか。

委員：これまで年12回の開催のうち、毎回事業評価を行ってきたが、例えば3回開催分は事業評価を中心に、その後の1回は事業全体について議論するのはどうか。個々の事業評価で出てきた課題を、事業全体で見て検討する時間も必要だと考える。

委員：生涯学習センター事業について、一覧表を作成してきた。目的別の施策、今年度、来年度から新規で行う事業、拡大する事業、世代別、事業の目標値等についてそれぞれ記している。この一覧で見ると、例えばコンサート事業は複数の目的に該当していたりと、ひとつの事業で複合的な目的を達成する事業を重要視していくのが良いのではないか。

委員：個別の事業評価についてはやはり必要であると思うが、個々の事業よりもさらに大枠の事業についても考え、第三者の視点から見た意見をうまく反映できると良いと思う。

会長：参加人数や満足度だけを指標にして良いのかと感じている。どの事業も満遍なく行うのも良いと思うが、重点事業があっても良いのではないか。参加者が少なかったとしても重点施策として、事業縮小はせず、集客の工夫をする等改善していきながら継続し、積極的に重点事業をPRし、町田市生涯学習センターの特徴について、今後検討する必要がある。

今回の議論をまとめ、次回特定のテーマを決定したい。

<その他>

なし。